

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野 貞夫

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 ☎763-5110
 会長 野村 義雄
 幹事 深見 章
 会報委員長 北野 寿三郎

No. 15

ROTARIANS-UNITED IN SERVICE
DEDICATED TO PEACE

ロータリアン——

奉仕に結束 — 平和に献身

1987~88年度 R I会長 チャールズ・C・ケラー

第259回例会 昭和62年10月20日(火) 晴

◇ “我等の生業”

◇ 出席報告

会員 55名 出席 41名
 出席率 74.55%

前回 10月13日((修正出席率)98.18%

◇ ビジター紹介 4名

◇ お誕生日祝福

大口君(9/26)

◇ ニコボックス

秋山 茂則君 京都旅行当日欠席で申し訳ありません。

松居 敬二君 ホールインワンを記念して。

大口 弘和君 ニューヨーク コロンビア大学の歯周病学の大学院に1ヶ月間特別入学してきました。

長らくホームクラブを欠席しました。誕生日祝い。

黒須 一夫君、西川 豊長君 先週の研修旅行では家内ともども浅井さん、松居さんにお世話になりました。

菅原 宣彦君 早退いたします。ごめんなさい。

竹内 真三君 本日も耳をけがします。

成田 良治君 結婚記念日祝い。

◇ 深見幹事報告

1. 次回例会終了後、理事役員会を開催いたしますので、理事役員の方はお残り下さい。
2. 秋山君のお母様がお亡くなりになりました。お通夜は21日、告別式は22日、ご自宅執り行われます。

◇ バナー紹介

京都 RC

New York RC

大口 弘和君

Upper Manhattan RC

大口 弘和君

◇ 野村会長挨拶

秋も大分深まって参りました。本日も4名

のお客様をお迎えて例会の開ける事を感謝します。

今月は職業奉仕月間ですので、職業奉仕の浅井委員長と、之を機に親睦も深めようという親睦活動松居委員長のご尽力で先週京都の老舗を3社訪問し、400年以上も続いた老舗の経営理念をきき、現代経営の理念に通ずるものを学んだわけです。3社共社長は古いロータリアンであった事もあり、極めて有意義であり、十分目的を達したものと思います。両委員長に厚くお礼を申し上げます。

訪問した3社の中の1社、京料理を専門とする店の社長が、何故今、京料理が流行っているかの説明がありました。

京都は王城の地で、永く朝廷政治が行われ、公家が勢力を誇ったが、公家たちは別に労働をするわけではなく、歌をよんだり料理を自慢し合ったりしていたが、貧乏であったので魚類は滅多に買えず、専らあの地の粘土質のうまい野菜を材料にして技術を磨いたそうで、1つ1つ丁寧に心をこめて自然の味を味わう京料理の原点はここにある様です。

公家の様に体力の消耗の少ない人達は薄味の野菜主体の食事でいいわけですが、労働に従事したり体力の消耗の激しい人は、味つけの濃いおかずで、ご飯を沢山たべる必要があるのです。

ところで今日の日本では、重労働は機械化され家内労働は電化され、人々は大きく疲れることもないので、味の濃いおかずで沢山ご飯を食べなくてもいい状態になったことが京料理繁昌の原因であろう。

要するに食生活が婦人的になったということだとのお話でした。

なる程時代の変化と共に食生活もその様に変っていくのかと思いましたが、4、5年前

にある経済評論家が、日本の経済は女々しくなったと言った事があります。

男らしい産業、即ち鉄鋼、造船、重電、自動車、石油化学の様な、工場の建設費でも数百億—数千億円、生産量も数千万トンとか1億トン、従業員数も1社で数万人から十数万人もいる様な産業は衰えを見せ始め、美的なもの、感覚的なもの、ゆとりのある遊びの産業が之に代わって大きくなり出したという趣旨の論説でした。

重厚長大時代は終り、軽薄短小の時代になったと言われ、政府の予測でも、将来の就労人口の分布は、一次二次産業より三次産業のウエイトがグンと大きくなるとされていますが、食文化もその意味に於て同じ軌道を走り、同じ挙動を示しているのかと考えさせられた次第です。

我が国の様な加工立国の国で本当にそれでいいのか、と考えざるを得ませんが、本日決定される自民党総裁即ち首相に竹下さんが、どう棋をとって行くか、目を見開いて見守りたいと思います。

◇ 講演

“歴代会長雑談”

会員 竹内 真三 君



よく『ロータリー会員になる事は容易だが真のロータリアンになるには努力を要する』と云われる。奉仕のため勇んでロータリアンになった方は少ないのであって、色々な事情から何となくロータリー会員になったというのが多いのではないか。それ故に様々の機会をとらえてロータリーの発想、慣習、歴史、機構等々に習熟する事が肝要と思う。

会長を止めて3年になりますが、2,3気付いた点を述べてみたいと存じます。クラブ運営の軸になるのは理事会であります。規程にある事ですから問題はありませんが、どうも最近、その精神が忘れられている様に思えてなりません。クラブの理事役員はクラブ運営の最終的な執行責任者であるが故に“理事会がすべてに優先する”規約になっております。従って「話し合いは一切理事会で……」となって一般会員は『例会への出席義務者』として出席の責を果たしているだけという何とも無気力な恰好となっている様に思えてなりません。所謂、ランチメンバー、ラベルボタン

メンバーという奴であります。幹事さん辺りから理事会の翌週の例会でも理事会の決定とその経過説明でもして頂くと一般会員と役員諸子とのgapが埋まって皆に我がクラブの動きが理解され易いのではないのでしょうか。

で、定例会だけではどうも物足りないという事になって側面からお互いをよりよく知り合う機会を持ちたいという事で趣味の会的なグルメの会とかgolf、ビリヤード、麻雀、唄、飲酒等の仲よし会みたいなのが当クラブにも出来て適当にメンバー同志友好を深めておられる様でそれはそれで大変に結構な事だと存じます。それを通じて必ずや、クラブ活動の原動力の様なものが湧く事を期待して止みません。単にそこに留まっては仲よしクラブでしかありません。

次に創立以来、多数のメンバーが入会されましたが、又多数の仲間が退会されました。

大雑把に申して年平均3名退会されると考えてよいのではないのでしょうか。従って年5名新会員を推選出来たとしても2名の純増でしかありません。3年前私の会長年度の終りがクラブ計画書を読み返してみますと55名とあります。只今の当クラブ55名で3年間会員の増強がないというのが何か淋しくなりました。勿論名古屋市内クラブでは最小であります。それで考えるのは職業分類が適切に考慮されているかという事です。一次二次三次と産業構造が変わって只今は“知価革命”という言葉があります様に三次産業の花盛りであります。そうした職種の変動に加えて地域的特性もございます。前から千種クラブは“先生”と呼ばれる人種が多いといわれていました。私もその一人ですが、千種、昭和というテリトリーは居住ゾーン、教育ゾーンの色彩の濃い地域故にそれは止むを得ない事であり千種クラブの活力を増す分類を考えなければならぬ時期にあると考えるのですがどうでしょう。カネボウは紡績屋ではなく、化粧品と製菓のメーカーに変わりました。時々刻々と名前と実体とが変わるといのが現実であって、旧来の制約に何時までも固執するの愚は、会員増強に関してクラブの弱体化にこそなれ活性化とは相反する事となるのを理解せねばなりません。10周年を70人のメンバーで迎えたいというのは私のはかない夢でしょうか。

◇ 例会変更のお知らせ

名古屋瑞穂RC 10/29 (木)秋の家族会の為、
10/25 (日)河文にてPM 5:30
より

◇ 次回例会 (10月27日)

講演 “音楽のたのしみ”

マリンバ演奏者

鬼頭 加代子さん (紹介 大谷君)

◇ 次々回例会 (11月10日)

友愛の日で立食例会の為、講演はございません。